

■ 書 評



不定愁訴の診断と治療 —よりよい臨床のための新しい指針—

Francis Creed, Peter Henningsen, Per Fink 編

太田大介 訳・解説

星和書店

2014年3月 260頁

本体価格 2,900円+税

本書は2011年に出版された Francis Creed, Peter Henningsen, Per Fink らによる *Medically Unexplained Symptoms. Somatisation and Bodily Distress* (Cambridge University Press) の翻訳である。不定愁訴は *medically unexplained physical symptoms* と表現され、既存の身体疾患では説明のつかない身体症状である。訳者まえがきや著者によるまえがきにも書かれているが、不定愁訴は米国においては5番目に多い受診理由であるなど臨床現場での主要な課題の1つであるが、まとまった解説書がないという現状があった。その中で本書は英国、ドイツ、デンマークなどのヨーロッパや米国などの北アメリカおよびアジアなど多岐にわたる国際的な執筆者による協力によって出版された。

英文原書は10章に渡る大書であり、以下のような章立てとなっているとのことである。1) epidemiology: prevalence, causes, and consequences, 2) terminology, classification, and concepts, 3) evidence-based treatment, 4) current state of management and organization of care, 5) barriers to improving treatment, 6) gender, lifespan, and cultural aspects, 7) medically unexplained symptoms in children and adolescents, 8) identification, assessment, and treatment of individual patients, 9) training, 10) achieving optimal treatment organization in different countries. このように原書では治療に関する記述の割合がさらに多く、行政への働きかけなど専門的な内容も加わっていた。

邦訳に際に、わが国のニーズに合わせて原著の1~4章、6、7章を抜粋して翻訳された抄訳の形を取り、第1章 疫学: 有病率, 病因, 転帰, 第2章 用語, 分類, 概念, 第3章 エビデンスに基づいた治療, 第

4章 不定愁訴の治療的管理と治療の組織化, 第5章 性差, 寿命, 文化的側面, 第6章 小児・思春期の不定愁訴, とその前半部分を中心とする章立てになった。

本書の特徴の1つに引用文献に関連付けた記載があり、参考文献が充実していることが挙げられる。第1章: 210文献, 第2章: 74文献, 第3章: 125文献, 第4章: 69文献, 第5章: 131文献, 第6章: 50文献となっており, 244頁に対して659文献となっている。これらの点から今日までの知見を網羅的に概観し, 得られたエビデンスを重視する姿勢が感じられる。治療においてもエビデンスに基づく知見や医療システムの中での治療の必要性が記述されているが, その中でも認知行動療法 (CBT) の有用性が示されており, 精神科医師のみならず, 不定愁訴にかかわる医療者に CBT の知識や技能が求められていることを感じたが, CBT を自らは積極的に行えない場合は心理療法家との連携がなされることも重要と思われた。

本書は単なる翻訳に留まらず, 各章の末尾に訳注が設けられており, 各種用語の解説や (DSM-5 などの) 訳語についての記載されている。また同じく各章に【訳者解説】があり, わが国における状況についての記載がされており, 本書で述べられていること, 特に医療費や医療システムのわが国の状況や課題が指摘されている。ここで第4章の訳者解説に「不定愁訴に取り組む精神科医は多くないからです。将来的にわが国でも, ドイツのように不定愁訴の難治例では心療内科を中心とした疾患センターで請け負い, それ以外はかかりつけ医を窓口として心療内科医あるいは精神科医, 基幹病院の総合診療医の連携によって治療が行われるのが一つの形でないかと思われます。」とある。2014年4月末時点での PubMed の検索で, *medically unexplained symptoms* (「不定愁訴」) で 453 論文, *medically unexplained symptoms and psychiatry* (「不定愁訴」と「精神医学」) で 151 論文がヒットする。一方で, *medically unexplained symptoms and psychosomatic medicine* (「不定愁訴」と「心身医学」) で 38 論文, *medically unexplained symptoms and primary care* (「不定愁訴」と「プライマリーケア」) で 166 論文となっているが, これらの報告を見ても「不定愁訴」と「精神医学」との関連は小さくはないことがわかる。本分野に取り組む医療者が必要であること, 特に精神科医のより積極的な関与が求められていることが感じられた。

(谷井久志)